

People's Processの原点

1980年代前半、国連ハビタットはスリランカ政府と協働し、住民を主体とする地域開発という新しい視点のアプローチを開発しました。この新しい支援の形が、国連ハビタットの都市と農村におけるコミュニティ開発プログラムの基本方針となったのです。

基本方針

People's Processは、行政機関主導の統治モデルから、住民自らが主体となる支援モデルへ移行するパラダイム・シフトをもたらしました。People's Processは、次の5つの手順を基本とする住民参加型のコミュニティ開発手法です。



多方面への波及効果

People's Processは技術と地域のノウハウを組み合わせることで、持続可能な支援を実現しています。さらに、事業のコストを低く抑え(金額換算で約30%の削減に相当)、地方経済を活性化し、地域での起業を可能にし、職業訓練を通じて国の建築基準を理解し普及できる人材を育成します。この支援アプローチは、一人も取り残すことのない社会づくりに配慮して人権を保障し、環境負荷を低減する活動により持続可能な開発を実現します。

年表：国連ハビタットが支援した主な災害と出来事

1992	アフガニスタン紛争の終結。紛争後の復興と「国家連帯プログラム(NSP)」の立ち上げ アフガニスタン紛争後の復興プロジェクト	アフガニスタン紛争後の復興プロジェクト ・2万5,000世帯の住宅支援 ・260万人のコミュニティ・インフラ整備
1994	ミャンマーの住環境改善プログラムの開始(HDIプログラム)	
2004	スマトラ沖大地震およびインド洋津波 -国連ハビタットはインドネシア、スリランカ、モルディブを支援	スマトラ沖大地震およびインド洋津波 ・インドネシア:1万2,500世帯の住宅支援 ・モルディブ:13の環礁島で5,300世帯の住宅支援 ・スリランカ:3万世帯の住宅支援、25万コミュニティのためのインフラ、市場およびコミュニティセンターの整備
2005	パキスタン大地震	パキスタン大地震 ・85万世帯の住宅支援
2008	ミャンマー サイクロン・ナルギス災害	
2009	スリランカ内戦の終結	スリランカ ・3万1,000世帯の住宅支援 ・350村のコミュニティ・インフラ整備
2010	パキスタン大洪水	パキスタン大洪水 ・3万2,000世帯の住宅支援 ・2万2,000世帯の衛生改善 ・1,400の手押しポンプによる給水
2011	日本 東日本大震災	東日本大震災 ・11市區町村でPeople's Processワークショップを開催
2013	フィリピン 台風ヨランダ災害	フィリピン 台風ヨランダ ・660のコアハウス建設 ・54のコミュニティ・インフラ整備プロジェクト ・計354人の半熟練工と作業長の育成
2015	南太平洋 サイクロン・バム - バヌアツ、フィジー、サモア ネバール大地震	そのほかの住環境改善事例 【モンゴル】1万2,000世帯 【バングラデシュ】300万人 【太平洋諸国】5か国へのアドバイザリー・サービス 南太平洋 サイクロン・バム - バヌアツ、フィジー、サモア シェルター・クラスターを通じた技術支援 ・シェルター、市街地の復興

国際連合人間居住計画(ハビタット)福岡本部(アジア太平洋担当)

〒810-0001 福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡8階
Tel: (092)724-7121 Fax: (092)724-7124 E-mail:habitat.fukuoka@unhabitat.org Website <http://www.fukuoka.unhabitat.org/>

Printed in 2017

住民主体のまちづくり 35年間の歩み

People's Process ー草の根活動からガバナンスまでー



Representatives of a Community Development Committee (CDC) that worked to develop and construct the first women's park in a province of Afghanistan. ©UN-Habitat Afghanistan



UN HABITAT
FOR A BETTER URBAN FUTURE